

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

54期(2000/平成12年)

かけがえのない日々

会員 五島 丈裕 (54 期)

司法研修所の寮を去るときも、実務修習地の松江（島根県）を離れる時も、寂しくなって目に涙が浮かんだのを覚えています。修習時代は、私の人生の特別なひとときとなっています。

1 私の幸運

(1) 補欠で入れた寮生活

研修所での修習では入寮を希望していました。前期も後期も初めは「ダメです（補欠です）」と言われていましたが、結局、いずれも入寮できました。

寮での生活は、（もちろん修習に励んでいましたが、）寮の部屋を往き来してご飯を食べたり、談話室で毎週一緒にドラマ（たしか「永遠の仔」）を観たり、恋愛相談をし合ったり、休日に集まってディズニールンドに行ったりした楽しい思い出が詰まっており、気を使う必要のない友人たちと四六時中過ごせる環境に身を置けたのは、本当にラッキーでした。

(2) 温かい人柄の教官方と、多才で思いやり深いクラスメイト

必死に勉強してどうにか司法試験に受かり、いざ司法修習が始まった時、私は、「教官とは、難しいことをたくさん言ってくる怖い人たちに違いない」、「いっぱい勉強してきた頭の良い修習生（クラスメイト）は、分厚い眼鏡をかけて議論を挑んでくるような人たちに違いない」などと想像していました。

実際は、難しい内容を理解できるようにきめ細かく指導してくださり、懇親会等では楽しい時間になるように配慮してくださる温かい人柄の教官方であり、また、多才で豊かな個性による刺激をもらい、ためらうことなく何でも話せるような思いやり深いクラスメイトでした。

多くの課題をこなしてゆく日々を心折れずに過ごせたのは、良い教官と仲間のいるクラスであったからだと思います。

(3) キャプテンの拝命(?)

私には、人見知りの面があり、自分からガンガン行くようなタイプではないので、本来は短い期間でクラスになじむのは難しかったように思います。

しかし、期せずしてソフトボール大会（当時の行事）のクラスキャプテンをやってくれと言われたため、皆と話してまとめる役回りになりました。そのような役回りとなりクラスの全員と話す機会ができたことは、溶け込めるきっかけとなり、これも幸運な出来事でした。

(4) 小規模庁（松江）での修習

実務修習地は、希望した松江（島根県）でした。修習生は4名で、裁判所、検察庁、弁護士会も、小規模と言えます。そのため、職員の方たちも含めて、ほぼ顔見知りとなり、とても歓迎して温かく接してくださいました。

夜、飲み連れに行ってもらい、自宅に招待されるなどに留まらず、休日にサイクリング大会に出場したり、海に行ったり、楽しく過ごした思い出を挙げるときりがない程です。

もちろん、裁判所、検察庁、弁護士会での指導は丁寧であり濃密で、例えば弁護士修習で最初に携わったコインロッカー設置に関する契約トラブルの訴状起案は、とてもややこしくて難しくて四苦八苦していたのですが、時間をかけて懇切丁寧に指導してくださったことを覚えています。

2 結局、人、そして交流

20数年前の修習時代を思い返すと、そこで経験した出来事というよりは、出会った人の顔が浮かびます。

私の修習時代がかけがえのない日々となったのは、良い人たちと出会って交流できた幸運によるのだということ、改めて感じました。